

**ならやま西池の生き物の移り変わり  
水生生物調査グループ**

木村 裕

ならやま西池は湿地を掘り下げて2010年の春に開設された池で、水生生物の調査はシニア自然大学校の指導を仰ぎ、その年の夏から開始されました。池の管理方法、調査方法は年次によって若干相違はあるもののほぼ同一方式の調査が継続されています。

2011年度はアオミドロが大発生して調査に苦勞をし、秋にはアオミドロの腐敗によるヘドロの堆積で池の維持管理にも苦勞をしいられました。しかし、池での生き物はアオミドロの多かったのが幸いしたようで、いろいろな種類がづぎづぎに見つかり調査スタッフを喜ばせてくれました。だが翌年以降は移動性の少ない生き物が主体で、他所から飛来してくる昆虫は非常に少なくなっており、調査スタッフにとっては少し物足りません。

池の定住者は、エビが2種類、ザリガニ、カワニナ、タニシ、ミミズで、オタマジャクシは年次によって発生量の差が大きい。

魚類では、ドジョウに気に入ってもらったようで、毎年成魚が見つかっています。ときどきニッポンバラタナゴとシマヒレヨシノボリが手に手を携えて上の養魚池から脱走してきます。

エビは、ミナミヌマエビが毎年一大勢力を保っています。スジエビはミナミヌマエビの1/10程度

で勢力争いには勝負がついたようです。

池の名主であるザリガニは、年次によって個体数にかなり変動があるものの量的にはそれほど多くない。調査時に捕獲された個体は、他の生き物を保護する観点ですべて殺処分しているが密度抑制にはあまり影響はないと思う。

ヒメタニシは池開設当初はいなかったのだが、2012年に初めて見つかり、近年増加の一途をたっています。とくに2018年度は多かった。

カワニナはもともと水路に住んでいたのだが、池の開設とともに水の流出口付近に住み着き、しだいに勢力圏を広げ、今では池全体に見られます。カワニナが増えたこともあり、ホタルは年々増加しています。

昆虫類では、マツモムシとコマツモムシが毎年見られて捕獲虫数も多い。エサキコミズムシとハイロチビミズムシは減少傾向が続き、とくに後者はここ2年ほど姿が見られなくなっています。

水生昆虫の中心となると思われたガムシ類、ゲンゴロウ類はときどき見られる程度で少ない。水面を走行するアメンボ、ヒメアメンボは健在で、毎年かなりの数が見られている。

トンボ類のヤゴは、池の開設当時はかなり見られたが、最近是非常に少なくなっており、そのせいで池面でのトンボの飛び交いも少ない。

詳細なデータはホームページの資料室にありますので興味のある方は見てください。

主な生き物の年次別捕獲数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
ミナミヌマエビ	49	403	676	5280	2654	3454	2834	1179	3791
スジエビ		2	1.2	42	205	136	192	133	169
アメリカザリガニ	36	79	126	99	47	95	192	6	44
ミミズ類		1	2278	248	320	140	552	215	63
カワニナ	7.8	9	169	88	91	351	304	272	593
ヒメタニシ			0.4		2.1	16	7.8	17	62
オタマジャクシ		56	119	31	30	4.3	56	1	37
マツモムシ	35	27	13	46	45	22	28	2	54
コマツモムシ	118	194	403	635	539	365	175	133	335
エサキコミズムシ		219	474	145	25	40	85	2	20
ハイロチビミズムシ	167	399	1746	615	3.4	9.5	23		